

鶴岡ロータリークラブ会報

843

1976-2-17 No.34

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 勲

◆ 点 鐘

◆ ロータリーソング (それこそロータリー)

◆ ビジターゲスト紹介

◆ 会長報告 (前会長鈴木善作君代理)

❖ 3月13日 PM10時鳥海にて佐藤会長を団長とした一行18名、台中港RC
結盟1周年記念式に表敬訪問のため出席

❖ 山形RC創立会長地区PG安斎徹氏の葬儀参列のため早坂PG、
小花君、三井徹氏奥さんが列席されました。

◆ 安斎氏の死去に対し御冥福を祈り黙禱

◆ 幹事報告—吉野幹事

❖ 立川RC 2月26日 (木) PM3:30に時間変更、小国RC 3月3日より
毎週水曜日 PM12:30に変更例会場レストランサンライズ

❖ ニューブランズウィックよりメッセージ (新穂君意訳) (後述)

◆ 会員スピーチ斎藤信義君 (後述)

◆ 出席報告

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING 人間に威信を!

高等教育の諸問題

——特にその在り方について——

鶴岡工業高等専門学校

校長 齋藤 信 義

1. わが国はこれまで、大学、短大、高等専門学校の3種をもって高等教育機関としてあつてきました。ところが、高校進学率は90%台に入り、大学進学率は、年々増加し、50年度では、18才人口の38.3%に達しました。しかも49年度の経済成長率が実質で0.5%の状況にあって、今後は安定成長が続くものと予想され、国や地方公共団体の財政事情も厳しい状況の下にあります。それにもかかわらず、高等教育への国民の需要が衰えるとは思われませんが、これまでのような無原則な量的拡大には問題がありまして、長期的展望の下に高等教育計画を策定する必要に迫られてきました。

文部省は、高等教育懇談会（座長茅誠司氏）を設けて、将来の高等教育の計画的整備、改革の調査を進めてきました。そして、昭和50年12月16日に、同懇談会の高等教育計画部会が取りまとめた中間報告を発表しました。

これによりますと、先ず、今日のわが国の高等教育の規模は、大学、高専、大学通信教育専門学校等一（高校卒の入学する各種学校を一定の基準に従って、高等教育機関に組み入れるように法律を改正した）——これらを含めますと、進学者において、18歳人口の約50%に達しております。今後このような高等教育の広がり全体を通じて、国民や社会の高等教育に対する多様な需要に対して、柔軟に対応していくことが重要な課題であると指摘しています。つぎに、計画の目標年度を61年度とし、前期（51～55）後期（56～61）とに分けて、前期の間は、特に今後の発展の基盤整備を図ることに重点をおいています。

前期計画の主な柱となっているのはおおよそつぎの通りであります。

- ① 量的拡大に歯止めをかけ、従来年平均2万7千人であった大学等への入学者増を、55年の5年間では3万2千人増にとどめること。
- ② 医師等、計画的に養成を必要とするものは整備を図ること。
- ③ 地方の国立大学の整備充実に力を入れること。
- ④ 私学の質的充実を図り、特に1.79倍という水増しを押し、定員超過の現状を1.5倍以内に是正すること。
- ⑤ 社会の多様な要請にこたえるために、短期大学等を充実させること。
- ⑥ ブロック別に大学等の計画整備を考え、大都市における新增設は原則として認めないものとする。

以上のような事項が主なものとなっています。後期の計画の具体性は示されていませんが方針としては、前期の実績や社会事情の変化の推移を見定めながら、高等教育の質的充実に留意して、改めて計画の策定を考へてはいますが、高等教育全体の構造を、積極的に柔軟化し、流動化していく方向となっているようであります。

ここで柔軟化、流動化といえますのは、たとえば、つぎのような仕組みと考えています。大学内の単位修得の相乗入れであるとか、（東大と東工大、等実施しています）。放送大学の創設、通信制と夜間制又は昼間制との組合せを考える。異った種別の学校への偏入学を認めること。などであります。

高等専門学校では、いろいろ制度的にも進められています。工業高校卒の4年次への偏入高専卒の大学3年次への偏入（東大、北大、東工大その他国立で20数校への偏入が認められている。また、高専を卒業してから入学する技術系の大学修士課程レベルの技術科学大学が51年度に創設されることとなります。

このような政策を高等教育全体の中で構想しようとするものです。

2. 中間報告は、これまでの文教政策に見られなかった発想の転換をしているようであります。本文には明確に表明していませんが、その背景や考え方についてふれる必要があると思えます。

中間報告では、61年度までの大学等の進学率を40%に押えるといっています。しかし、アメリカは60%台に入りつつあります。このように量的に大きくなりますと、これまでのように大学とはエリート教育であるとは言えなくなります。

カリフォルニア大学の、トロウ教授（M. Trow）は、高等教育の普及の段階について、つぎの3つに分けています。

- (1) エリート高等教育の段階。

在学率が同一年齢層の約15%まで。

- (2) 大衆高等教育の段階。

在学率が同一年齢層の約50%まで。

- (3) 普通高等教育の段階。

在学率が同一年齢層の約50%を超える。

このような分類からすれば、わが国は既に大衆教育の段階に入っており、中間報告で言っている規模として捉えますと、さらに普通教育の段階に入っているともいえます。

ここに、高等教育をどう見るかという根本問題がでてきます。事実、世界各国でも、このような現状においての様々な課題に取りくまざるを得ない段階に入っています。

OECD（経済協力開発機構）では、教育を単に経済成長との関連においてとらえるだけでなく、教育と社会構造全般との関係を重くみて、教育制度、教育内容の両面にわたる調査研究、情報交換を積極的に進めています。内部機関として、教育研究・革新センターを1969年につくりました。

そして、これまでのように大学中心（4年制）の高等教育規定ではなく、広く、中等教育後の教育（Post secondary education ポストセカンダリー教育）として捉えて将来の高等教育の構造を検討すべきだとしています。各国共通の理解としては、高等教育は、これまでの量的拡大の時代から、構造的変化の時代に入ったことを前提とした現状の認識、調査して今後の在り方を検討しています。

わが国においても、松下幸之助氏の意見に代表されるように、大学についての様々な批判意見、提言が国民各層から出されています。高等教育のみならず、今日のように、教育の本

質が問われている時代はないと思います。

高等教育懇談会は、このような背景にたつて、将来の高等教育のあり方を研究し、政策への反映を提言しているといえます。

高等教育への進学急増をどうとらえるか。

大学の質的充実と、学校間、地域間の格差

是正の急務。高等教育の量的拡大へどう対応するか。

職業構造、産業構造の変化にともなう人材需要の動向にどう対応するのか。

わが国の学術研究の質的水準の維持、向上の要請にどうこたえるか。

地域開発が地方文化の向上への寄与は。以上のような、様々な課題をかかえているのが、今日の高等教育の諸問題であります。

しかし、今日のもっとも大きな混迷は、教育が、共通の目標と方向を見失って、価値観の対立がはげしく、将来展望の見通しが明らかでないことと思われまふ。

高等教育の問題は、その在り方が、わが国では、入試制度にかかわってくる、特殊な事情にあることから、文教関係者だけや学校関係者だけのものではなく、大学とは何か。大学は何のためか。国民みんなが考えなければならない段階にきており、みんなにかかわる問題になってきているといっても言いすぎでないと思います。

台中港RC表敬訪問者名簿

団 長	佐 藤 忠 君				
副団長	安 藤 定 助 君				
幹 事	中 江 亮 君				
副幹事	三 井 健 君				
会 計	黒 谷 正 夫 君				
医 務	張 紹 淵 君				
団 員	板 垣 俊 次 君	小 松 広 穂 君	進 藤 誠 一 君		
	佐 藤 順 治 君	佐 藤 正 郎 君	嶺 岸 光 吉 君		
	藪 田 誠 樹 君	齋 藤 得 四 郎 君	三 浦 悌 三 君		
	半 田 茂 弥 君	中 江 道 子 さん			
随 行 員	黒 坂 定 行 君				

出 席 報 告

本日の出席	会 員 数	70名	欠席者	阿部(襄)君、安藤君、張君、早坂(源)君、早坂(徳)君、石黒君、板垣君、玉城君、上林君、黒谷君、小花君、小池君、小松君、嶺岸君、三井(健)君、三浦君、中江君、齋藤(得)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(正)君、鷺田(幸)君、笹原君、進藤君、菅原(啓)君、鈴木(弥)君、高橋(正)君、横山君、津田君、山本君、藪田君
	出 席 数	38名		
	出 席 率	54.28%		
前回の出席	前回出席率	68.57%	メークアップ	五十嵐(甲)君一酒田東RC 佐藤(友)君一温海RC 藪田君一仙台RC 半田君、板垣君、玉城君、風間君、今野君、小松君 新穂君、菅原(啓)君、谷口君、富樫君、菅原(辰)君一鶴岡西RC 小池君一外国RC
	修正出席数	63名		
	確定出席率	90.00%		
ピジター	佐藤昭吉君一温海RC 原田行雄君、小林忠康君一鶴岡西RC			